

大総務第 109 号
令和 3 年 2 月 5 日

大阪市外郭団体評価委員会
委員長 阪口 彰洋 様

大阪市長 松井 一郎
(担当：総務局行政部総務課法人グループ)

諮問書

大阪市外郭団体等への関与及び監理事項等に関する条例（平成 25 年大阪市条例第 10 号）第 7 条第 1 項に規定する外郭団体である阪神国際港湾株式会社による令和 2 年度の経営評価（対象事業活動）について、別紙のとおり、所管所属長である大阪港湾局長から提出があったので、同条第 4 項に基づく意見聴取のため大阪市外郭団体の事業経営の評価等に関する指針を定める規程第 4 条第 3 号イに基づき諮問します。

令和2年度 事業経営評価

団体名	阪神国際港湾（株）	所管所属名	大阪港湾局
-----	-----------	-------	-------

中期目標	(1) 当該外郭団体の事業経営を通じて達成しようとする本市の行政目的又は施策の具体的な内容
	阪神港（大阪港及び神戸港）のうちの大阪港において、外貿埠頭の利用を拡大することで貨物取扱量を増大させること、また、フェリー航路数を維持すること
	(2) 中期目標期間
	令和2年9月1日から令和7年3月31日
	(3) 中期目標の期間終了時において、(1)の行政目的又は施策によって実現しようとしている状態
	外貿埠頭の利用拡大により貨物取扱量が増大している状態、また、フェリー航路数が維持されている状態

外郭団体の自己評価	当該事業年度の指標及び目標に基づく評価を踏まえた団体の総合的な評価	
	当該年度においては、概ね目標を達成することができた。 集貨事業の推進については、新型コロナウイルス感染症に伴い、ソフト面ではセミナーの中止を受けた代替のWEB活用の取組みの検討、ハード面ではガントリークレーンの整備見送りを受けた事業者との継続的な調整を行うとともに、既存ガントリークレーンの更新整備を完了した。 フェリー航路数の維持については、大阪市主催の「大阪港クルーズ」の中止により、関連する目標は達成できなかったが、その他団体のノウハウを活用した目標については全て達成し、さら大阪市と共に新型コロナウイルス感染症下での業界への支援事業としてPR支援活動に取り組むとともに、フェリーターミナルヘサーモグラフィーの設置も行った。	
		最終目標達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について
	イ ア：順調 イ：遅れあり ウ：計画の見直し必要	新型コロナウイルス感染症の影響下ではあるが、施設整備や新・港湾情報システムに関しては、整備・調整に一定期間が必要であるため時期を逸することなく計画を進める。 集貨事業の推進及びフェリー航路数の維持については、新型コロナウイルス感染症に伴う事業者への支援が課題となっているが、より効果的な支援策等を模索し取組みを進める。
当該事業年度の評価	当該事業年度の指標及び目標に基づく評価を踏まえた本市の総合的な評価	
	中期目標として掲げている、集貨事業の推進及びフェリー航路数の維持の実現に向け、4項目の取組みを行うこととしている。 目標達成に向け取り組むこととしていた、集貨事業の推進のためのセミナー及び集貨事業説明会の開催、ガントリークレーンの整備については、いずれも新型コロナウイルス感染症の影響により、当初目標を達成できなかったが、セミナー及び集貨事業説明会は代替策を検討の上取組みを実施している。ガントリークレーンの整備も、既存ガントリークレーンの前倒し整備を完了している。渋滞対策として実施する「新・港湾情報システム」の導入については、目標を達成している。フェリー航路数維持のためのフェリー振興策の実施については、こちらも新型コロナウイルス感染症に伴う影響により、本市主催の「大阪湾クルーズ」の中止を受け、その協力を行っていないが、団体独自の振興策については目標どおり実施している。 以上の取組みについて、一部遅れが生じているものの、当該取組みを確実に実施することにより、中期目標の達成に寄与することが見込まれるため、引き続き取組みを進めていってほしい。	
	助言等及び講ずるよう求める措置の内容【大阪市外郭団体等への関与及び監理に関する条例第7条第5項】（※必要な場合のみ）	

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組－1 (※分野ごとの評価)

中期計画	団体が中期計画期間中に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容										
	【集貨事業の推進】										
	・ 阪神港の集貨事業などの取組みを国内事業者向けに紹介するセミナーを開催する										
	・ 主として東南アジアにおいて地元荷主を対象にポートセールス活動（セミナーの開催等）を実施する										
	指標1	国内事業者向けセミナーの開催回数									
	目標値	R2目標	進捗率	R3目標	進捗率	R4目標	進捗率	R5目標	進捗率	R6目標	進捗率
		2回	－	5回	－	5回	－	5回	－	5回	－
中期計画	指標2	海外ポートセールス（セミナーの開催）の回数									
	目標値	R2目標	進捗率	R3目標	進捗率	R4目標	進捗率	R5目標	進捗率	R6目標	進捗率
		1回	－	1回	－	1回	－	1回	－	1回	－

年度計画達成状況
指標1

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容				【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容			
・ 国や大阪市等と共に阪神港（大阪港）の集貨事業などの取組を紹介する「阪神港セミナー」を大阪又は東京で開催				・ 「阪神港セミナー」は、当初、秋開催を目処とし取り組んできたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催が困難となり、その後の状況も踏まえ最終的に録画方式での開催を検討することとなった。2月上旬から中旬にかけ録画方式で2週間程度の配信による、セミナー開催を決定した。 ・ 「阪神港の集貨事業説明会」は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかったが、HP掲載に加え、荷主・物流関係事業者に対し、個別に電話やメールにより説明を行った。			
【指標1】目標の達成状況							
実績値	前々年実績		前年実績		R2年実績	目標達成率	達成状況
	5回		5回		0回	－	b (i)
中期計画に対するの進捗状況 【当該事業年度】			ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	《達成状況》 a：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった		

年度計画達成状況
指標2

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容				【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容			
当社のノウハウを活用し、主として東南アジア（ベトナム等）において地元荷主を対象にポートセールス活動（セミナーの開催等）を行う。				現地を訪問しセールスの強化をすることが本事業の目的であるが、今年度については、コロナウイルス感染症の影響により、実施を見送った。			
【指標2】目標の達成状況							
実績値	前々年実績		前年実績		R2年実績	目標達成率	達成状況
	1回		1回		0回	－	b (ii)
中期計画に対するの進捗状況 【当該事業年度】			イ	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	《達成状況》 a：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった		

外郭団体の自己評価	指標の達成状況	b (ii)	a：目標達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない b：目標全部未達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない c：目標一部未達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない
	当該事業年度の達成状況について		
	新型コロナウイルス感染症の影響により従来のような集合型のセミナーや海外ポートセールスの実施が困難であったため、セミナーについてはオンラインを活用し、録画映像を一定期間配信することでセールス活動を行うべく企画した。集貨事業説明会は、HPや電話、メール等により、対象と考えている荷主・物流事業関係者に個別説明を行い、制度の周知は一定行えたと考えている。 海外ポートセールスについては、実施が困難な状況であり、開催することができなかったが、状況も見極めながら継続して検討していきたい。		
	最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について		
	国内事業者向けの取組みとなるセミナーや集貨事業説明会について、新型コロナウイルス感染症の状況を勘案しつつ、次年度以降の取組方法について検討していきたい。 海外ポートセールスについては、現地を訪問してのトップセールスが目的であるが、コロナウイルス感染症の影響により、実施が困難な状況であったため、状況に応じた対応策を検討していく。		

市の審査	指標の達成状況		b (ii)	「外郭団体の自己評価」に対する審査結果	
	a：目標達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない b：目標全部未達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない c：目標一部未達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない			国内事業者向けセミナー及び海外ポートセールスについて、新型コロナウイルス感染症の影響により、いずれも当初計画どおりの実施とはなっていない。その中において、セミナーは、代替としてWEBを活用した録画方式による実施を検討し、2月の配信に向け素材の作成を行っている。 一方で、海外ポートセールスについては、現地を訪問してのセールスが目的であるため実施は困難な状況であった。今後、状況を見極めながら対応策の検討を行ってもらいたい。 以上のことから、団体の自己評価は妥当であると考えている。	
	「様式1：中期目標(3)」に対する取組の有効性		ア	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す	
	「 <u>中期目標</u> 」達成の視点からみた審査結果				
	本取組みについて、新型コロナウイルス感染症の状況によるところが大きく、今後においても、その状況に応じた対応を行っていく必要がある。今年度、国内事業者向けの取組みにおいては、セミナーのWEB配信による開催を検討し、その準備を行うとともに、集貨事業説明会はHPの活用や個別説明により実施した。引き続き、これらの取組みを進めていってもらいたい。海外ポートセールスにおいては、新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかったことから、より中長期的な視点を持って次年度以降の開催方法の検討を含め取組みを進めていってもらいたい。今後、状況に応じた効果的なポートセールスを展開し、中期目標として掲げている貨物取扱量の増大に繋げていってもらいたい。				

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組－2

(※分野ごとの評価)

団体が中期計画期間中に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容

【港湾機能の強化に資する施設整備】

・コンテナ埠頭の港湾機能のため、C12において高規格のガントリークレーン2基の新規整備及びC1,C3,C8において既存のガントリークレーン4基の更新整備を行う

・ガントリークレーン整備費用の調達に向け、国及び大阪市等との調整を行う

中期計画

指標	整備対象となるコンテナ埠頭のガントリークレーンの基数（新規及び更新）										進捗率＝整備完了基数／(2+4)基	
目標値	R2目標	進捗率	R3目標	進捗率	R4目標	進捗率	R5目標	進捗率	R6目標	進捗率		
	新設2基整備着手	0%	既存1基整備完了 既存2基整備着手	17%	既存1基整備着手	17%	新設2基整備完了	50%	既存3基整備完了	100%		

年度計画達成状況	【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容			【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容		
	夢洲（C12）において大型船に対応可能な高規格ガントリークレーン2基の新規整備として、令和5年度完成に向け整備着手。 咲洲（C3）において老朽化している既存のガントリークレーン1基の更新整備を行う。			夢洲（C12）における高規格ガントリークレーン2基の新規整備については、新型コロナウイルス感染症が及ぼす荷動きの変化により船社の配船計画の見直しが行われたため、事業者との協議を経て見送った。 咲洲(C3)における既存ガントリークレーン1基については、前倒しして今年度更新整備を完了した。		
	実績値	前々年実績	前年実績	R2年実績	目標達成率	達成状況
		—	—	既存1基整備完了	—	b (ii)
中期計画に対するの進捗状況【当該事業年度】		イ	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	《達成状況》 a：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった		

外郭団体の自己評価	指標の達成状況	b (ii)	a：目標達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない b：目標全部未達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない c：目標一部未達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない
	当該事業年度の達成状況について		
	夢洲(C12)のガントリークレーンについては事業者の配船計画に応じ更新時期を前倒しし対応する計画であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により事業者が配船計画を見直すこととなり新規整備着手には至らなかった。次年度以降に整備着手できるよう大型船の誘致を行いつつ、引き続き事業者との協議を継続する。		
	咲洲(C3)のガントリークレーンについては、過年度から整備を行ってきている中、利用者サービス向上のため、前倒しで更新整備を行い、完了した。		
	最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について		
	夢洲(C12)のガントリークレーンの新規整備着手に向けては、新型コロナウイルス感染症の影響が不透明な中においても、さらなる大型船を誘致し、引き続き事業者との協議を継続する。		
	大阪港の港湾施設の機能強化に向け、次年度以降も中期計画に基づき取組みを進める。		

市の審査

指標の達成状況	b (ii)	「外郭団体の自己評価」に対する審査結果
a：目標達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない b：目標全部未達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない c：目標一部未達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない		夢洲における新規整備に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響による事業者の配船計画の見直しに伴い止むを得ず計画の見直しとなったものである。団体としては、次年度以降に整備着手できるよう大型船の誘致を行いつつ、引き続き事業者との協議を継続していくこととしている。 一方、咲洲における既存ガントリークレーンの更新については、利用者サービス向上のため、前倒しで更新整備を完了している。 以上により、当該目標達成の観点から、団体の取組み及び自己評価は妥当であると考えている。
「様式1：中期目標(3)」に対する取組の有効性	ア	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す
「中期目標」達成の視点からみた審査結果		
ガントリークレーンの整備については、大阪港としての長期的な集貨増を勘案した上で、その実現に向け施設の設置計画、事業者との調整等を行うこととしており、整備計画が別途策定され、その計画に基づき整備を行ってきている。 今年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、配船計画の見直しを受け事業者との調整の結果、新規整備を見送ることとなった。 一方で、利用者サービス向上のため、令和3年度完了予定の咲洲のガントリークレーンの整備を前倒しで完了していることは評価できる。 今後は、中期目標として掲げている貨物取扱量の増大に向け、事業者との協議を継続し、大型船を含めた配船計画を実現し新規整備を再開することとしており、当初の目標であるR5年度の整備完了に向け引き続き取組みを進めていってほしい。本市としても目標達成に向け、団体から事業者との調整状況等の報告を適宜受けるなどしながら必要となる監理を行っていく。		

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組－3 (※分野ごとの評価)

中期計画	団体が中期計画期間中に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容						
	【コンテナ埠頭周辺の渋滞緩和に向けた「新・港湾情報システム」の導入】						
	・「新・港湾情報システム」の導入に必要な事業者等との調整を行う ・試験運用を開始し、その結果の分析を行う ・本格導入に向け事業者等との調整を行う						
	指標	「新・港湾情報システム」の導入					
目標値	R2目標	進捗率	R3目標	進捗率	R4～R6目標	進捗率	
	事業者等調整	－	試験運用の開始 試験運用結果分析 本格導入に向けた調整	－	試験運用と修正を繰り返し行い、真に使いやすいシステムを構築し、速やかに本格運用を開始する	100%	

年度計画達成状況

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容			【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容				
・「新・港湾情報システム」の導入に向けた調整として、試験運用が開始できるよう、必要となる事業者等との協議を行う			・「新・港湾情報システム」の導入に向け事業者へのデモ・意見交換を行い、国が行うシステム連携等に係る調整、港湾管理者との事業費に係る調整等を行った。 ・「新・港湾情報システム」の導入に係るハード整備として、携帯端末用アプリ開発の概略設計を完了した。				
目標の達成状況							
実績値	前々年実績		前年実績		R2年実績	目標達成率	達成状況
	－		－		事業者等調整	100%	a (i)
中期計画に対するの進捗状況 【当該事業年度】		ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」		《達成状況》 a：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった		

外郭団体の自己評価	指標の達成状況	a (i)	a：目標達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない b：目標全部未達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない c：目標一部未達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない
	当該事業年度の達成状況について		
	今年度は、大阪港において試験運用を開始するため、導入先となる当該ターミナル運営者と協議を開始し、試験運用への参画に向けた意思を確認できた。 また、システムを運用するための携帯端末用アプリ開発の概略設計を完了した。		
	最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について		
	「新・港湾情報システム」の大阪港における試験運用の導入にあたっては、その時期について、当該ターミナル運営者及び関係者との十分な協議を経て、その理解を得ることが必須である。最終目標の達成に向けては、次年度において、大阪港の1ターミナルでの試験運用に向けた協議を整える。		

市の審査

指標の達成状況	a (i)		「外郭団体の自己評価」に対する審査結果
a：目標達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない b：目標全部未達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない c：目標一部未達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない			今年度においては、試験運用開始に向け、ターミナル運営者との協議において参画の意思を確認することができたため、一定の成果があったものと考えている。またハード面では、システム運用を行うための携帯端末用アプリ開発の概略設計を完了する等目標を達成することができており、団体の自己評価は妥当であると考えている。
「様式1：中期目標(3)に対する取組の有効性	ア	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す	
「中期目標」達成の視点からみた審査結果			
「新・港湾情報システム」の導入に向け、今年度においては、試験運用開始を控え、ターミナル運営者との協議において参画の意思が確認でき、一定の成果をあげている。また、本市及び国等の関係者との事業費に係る調整を行う等、目標達成に向け、スケジュール通りの進捗が図られているものと考えている。			
次年度以降においても、中期目標として掲げている貨物取扱量の増大に向けて、コンテナ埠頭周辺の渋滞緩和を図るため、計画に沿って事業を推進していくよう、適宜団体からの報告を受ける等しながら、本市として必要となる監理を行っていく。			

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組－4（※分野ごとの評価）

中期計画	団体が中期計画期間中に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容										
	【フェリー航路数の維持】										
	・大阪市が実施するフェリー振興策である市民を対象とした大阪湾クルーズへの協力を行う（※R2年については、コロナウイルス感染症の影響により、開催が自粛）										
	・当社のノウハウを活用しフェリー振興策として次のとおり取り組む										
	(1)HPを活用したフェリー事業のPR活動の実施する（2）フェリー振興のために新聞折込による広告掲載を行う（3）フェリー施設の補強工事を実施（4）大阪港におけるフェリー運航にかかる利用者との意見交換及び協議を行う（5）展示会へのフェリーPRブースの出展を行う										
	指標 1	大阪市が実施するフェリー振興策に対する協力回数									
	目標値	R2目標	進捗率	R3目標	進捗率	R4目標	進捗率	R5目標	進捗率	R6目標	進捗率
		0 回	－	1回	－	1回	－	1回	－	1回	－
指標 2	当社が実施するフェリー振興策の実施項目数										
目標値	R2目標	進捗率	R3目標	進捗率	R4目標	進捗率	R5目標	進捗率	R6目標	進捗率	
	4項目	－	5項目	－	3項目	－	4項目	－	3項目	－	

年度計画達成状況

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容				【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容			
大阪港で発着するフェリー航路の認知度向上と利便性のアピールによりフェリー利用の促進を図るため、大阪市が実施する「大阪湾クルーズ」に協力する。				・「大阪湾クルーズ」の準備を行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止されたため、大阪市をはじめとした関係者間で今後の実施方法についての検討を行った。 ・「大阪湾クルーズ」の中止を受け開催予定であった、大阪港湾局が主催する「大阪みなとの賑わい&フェリーセミナー」の準備を行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止された。			
【指標1】目標の達成状況							
実績値	前々年実績		前年実績		R2年実績	目標達成率	達成状況
	－		－		0回	－	a (i)
中期計画に対する進捗状況【当該事業年度】		ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」		《達成状況》 a：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった		

年度計画達成状況

指標2

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容				【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容			
・フェリー事業のPR活動として、年間を通してポータルHPの維持・更新を行う ・フェリー振興のための広告掲載として、2回の新聞折込を行う ・船舶の大型化対応のためフェリー施設（F5栈橋）の補強工事を実施する ・大阪港におけるフェリー運航にかかる利用者との意見交換及び協議を行う				・フェリー事業のPR活動として、年間を通してポータルHPの維持・更新を行った。 ・フェリー振興のための広告掲載として、本年7月に2回新聞折込を行った。 ・船舶の大型化対応のためフェリー施設（F5栈橋）の補強工事を実施した。 ・大阪港におけるフェリー運航にかかる利用者との意見交換及び協議を行った。 （・フェリーに対する新型コロナウイルス感染症下での支援事業として、大阪市とともにPR活動支援を行った。） （・フェリーターミナルにサーモグラフィの設置を行った。）			
【指標2】目標の達成状況							
実績値	前々年実績		前年実績		R2年実績	目標達成率	達成状況
	－		－		4項目	－	a (i)
中期計画に対する進捗状況【当該事業年度】		ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」		《達成状況》 a：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった		

目標達成率＝R2年度の実績項目数／中期計画におけるR2年度の目標項目数

外郭団体の自己評価

指標の達成状況	a (i) a：目標達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない b：目標全部未達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない c：目標一部未達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない
当該事業年度の達成状況について	
「大阪湾クルーズ」の中止を受け、コロナ禍のもと開催予定であった、大阪港湾局の主催する「大阪みなとの賑わい&フェリーセミナー」についての協力準備を行ってきたものの、当該イベントについても新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。次年度以降においても現在の状況が続くことも想定されることから、今後の「大阪湾クルーズ」の実施方法について、関係者間で検討を行った。 当社の取組みとしては、HPの維持管理、新聞への広告掲載や意見交換等、さらにフェリーの大型化に対応するための棧橋改修（F4）に伴う代替棧橋の補修工事（F5）を行う等、目標どおりの進捗を確保した。 さらに、感染症下での取組みとして当社によるフェリーターミナルへのサーモグラフィの設置及び当社と大阪港湾局でのPR事業の支援を行う等の取組みを行った。 以上の取組みにより、目標に掲げているフェリー航路数の維持に寄与したと考えている。	
最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について	
フェリー航路数の維持については、大阪港湾局が毎年行う「大阪湾クルーズ」への協力、当社が取り組んでいる様々なフェリー振興策の確実な実施が重要であり、次年度以降も継続して取り組んでいく方針である。 しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、フェリー業界が多大な損害を受けており、今後、感染収束も不透明な中、大阪市と共に取り組んだ、PR活動支援等の取組みを含めた振興策を継続して行っていく。	

市の審査

指標の達成状況	a (i)	「外郭団体の自己評価」に対する審査結果	
a：目標達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない b：目標全部未達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない c：目標一部未達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない		新型コロナウイルス感染症の影響により、本市が主催する「大阪湾クルーズ」を中止、またコロナ禍において企画した「フェリーセミナー」も中止したため、協力要請を行うこととならず、「大阪湾クルーズ」については、本市をはじめとした関係者間で今後の実施方法の検討を行った。その他の項目については、予定どおり進捗し、さらに新型コロナ感染症対策として、サーモグラフィの設置等も行っており、団体の取組み及び自己評価は妥当と考える。	
「様式1：中期目標(3)」に対する取組の有効性	ア	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す	
「中期目標」達成の視点からみた審査結果			
新型コロナウイルス感染症の影響により、本市が主催する「大阪湾クルーズ」の開催については不透明な状況ではあるが、今後の開催方法の検討を本市と共に行っており、また団体がそのノウハウを活用し取り組んでいる事項についても、予定どおり進捗している。さらに、コロナウイルス感染症下での業界への支援事業として本市と共にPR支援活動に取り組むとともに、フェリーターミナルへサーモグラフィの設置も行っている。			
これら取組みの着実な遂行が、中期目標として掲げているフェリー航路数の維持に繋がるものと考えているので、引き続き必要となる監視を行っていく。			